

会議録

令和6年3月20日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和5年度第8回定例会
開催日時	令和6年1月24日(水) 18時30分から20時05分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、荒井茂、小池教之、下坂小百合、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、城石雅行、松本静、荒井容子、辻康一 事務局：福所館長、市川事業係長(柳沢)、山本分館長(田無)、國府方館長補佐(芝久保分館長)、一之瀬分館長(谷戸)、長谷部分館長(保谷駅前)、星野事業係主査
欠席者	高井正、高橋浩一
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 審議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度第6回定例会会議録(案)について(資料1) (2) 令和5年度第7回定例会会議録(案)について 2 主催事業について <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度公民館主催事業報告について(資料2) (2) 令和5年度公民館主催事業計画について(資料3) (3) 令和6年度公民館主催事業計画について (4) 公民館市民企画事業について (5) まちなか先生について 3 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会報告 (4) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 4 事務連絡及び情報交換 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度第1回利用者懇談会について (2) 令和5年度第9回定例会の開催について
会議資料の名称	【配布資料】 資料1 令和5年度第6回定例会会議録(案) 資料2 令和5年度公民館主催事業報告書 資料3 令和5年度公民館主催事業計画書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(2名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	
1 審議事項 (1) 令和5年度第6回定例会会議録(案)について(資料1) ●令和5年度第6回定例会会議録(案)について承認 (2) 令和5年度第7回定例会会議録(案)について ●令和5年度第7回定例会会議録(案)については、各自内容を確認し1週間以内をめぐりに修正意見を事務局に送ることとする。	
2 主催事業について (1) 令和5年度公民館主催事業報告について(資料2) ○A委員 3館から保育付き講座の報告がされているが、それぞれ特徴がある。子育て中の人のための	

講座（保育付き）「イヤイヤ期なんか怖くない！ みんな笑顔でいられるコミュニケーション講座」（ひばりが丘）は、子どもを預けること、預かることを学びにするとされていて、一人の講師で講座が企画され、学びが積み重ねられていったことが報告されている。保育室活動も含めて充実した実践が報告されている。子育て中の人のための講座（保育付き）「五感を使って心豊かに子育てを！」（谷戸）は講師が5人。12回の連続講座ではあるが、講師が複数いると、深めていくのも難しいのかなと思った。きっかけとして、参加者も興味深く受け止めていると感じた。子育て中の人のための講座（保育付き）「ママもパパも楽しくワークライフバランス～子育て・家事を人生のキャリアに～」（芝久保）も講師6人の12回の連続講座。父親もまきこみたいと取り組んだ意欲的な講座で、公開講座に父親が参加している。その方たちも、もっと深めたいと思ったのではないかなと思う。また、一人一人の講師の回も、もっと深められるのではないかなと思う。保育については講座の中で取り上げなかったようだが、次に企画する時は、中間報告を行うなど、講座の中で保育について取り上げていただきたい。また、各館の担当者間で、保育付き講座の持ち方について共有していただきたい。

○B委員

子育て中の人のための講座（芝久保）について、日曜日に開催した公開講座に父親の参加があり、今後も継続してほしいという要望が出されたということで、挑戦してよかったと思う。子育ての講座は母親対象と考えがちだが、父親も育児について関心や悩みがあるのではないかな。そういう企画にもつなげていけたらと思う。乳幼児をもつ父親を対象とした講座を考えてもよいのではないかな。

○分館長（芝久保）

子育て中の人のための講座（芝久保）は、平日の昼間開催の連続講座だったが、2回、日曜日に公開講座を実施した。うち1回はオンライン参加を併用した。2回とも、女性、男性の参加があったが、男性の参加の方が多かった。

○A委員

子育て中の人のための講座（芝久保）について、男性参加者の参加に至る経緯がわかったら教えていただきたい。

○分館長（芝久保）

ワークライフバランスについて考えてみたいという自身の関心から参加した方もいれば、妻に勧められて参加した方もいた。

○C委員

社会問題講座「子どもの居場所づくりから見えてきた、子どもと共に歩むということ」（保谷駅前）について、定員30人に対し22人の参加だが、どういう人が参加しているのか、教えていただきたい。

○分館長（保谷駅前）

口コミで参加した方が多かった。

○C委員

公民館だより等を見て参加したというより、いずれかの団体に属している方たちの参加が多いのか。

以前も話したことがあるが、この講座のよい点は2つあると思う。一つは、親に対する指導がないこと。今は不登校と呼ばれているが、初期は学校恐怖症、その後、登校拒否と呼ばれ、背景に母子分離不安があるとされ、親へ様々な助言を行い、結果として親を苦しめた時代があった。この講座にはそういうところがなく、子どもの居場所という視点から考えているところがすばらしい。もうひとつは、様々な団体がかかわっているが、その中に発達障害に特化した団体があること。苦しんでいる親たちはたくさんいると思う。必要としている方に講座の情報を届ける努力をしていただきたい。そうすれば、もっと参加者が増えると思う。

平和を考える講座「このまちにも戦争があった 中島飛行機武蔵製作所と空爆遺跡を辿る」（芝久保）について、参加者は定員に達していないが、担当の考察・課題欄に、開催を望む声が多いとある。この講座は、戦争の悲惨さを伝えて平和の尊さを知るという切口だが、そういう問題志向ではなく、そのような状況をどのように切り抜けてきたかという解決志向で講座を企画することを検討していただきたい。出征した私の父は、いかに戦争は悲惨なものかを私に

話した。母は、例えば、芋がらの調理をしながら、戦争中に芋がらを食べたなど、困難な状況をいかに乗り越えたかを私に語った。その時、私はほっこりした気持ちになった。私は、芋がらを食べることを通して、平和のありがたさを実感した。解決志向の方が、私にはよかった。来年度は、いかに生き抜いたかという解決志向で戦争を語っていただきたい。そういう講座を企画していただきたい。

○B委員

平和を考える講座（芝久保）について、参加者の感想に「70年以上前のことがリアルに自分ごととして捉えることができ、よかった」とある。参加者には、40代、50代の戦争を体験していない世代もいて、頭で考えるだけではなく、実際に市内を歩いて身体で感じている。C委員が提案するような平和講座も大切だが、地域の中で戦争をリアルに体験できるこの講座の取り組みも大切だと思う。

○D委員

暮らしに役立つ実学講座「スマホの安全な使い方教えます」（芝久保）について、「全てが理解できず残念だった」という80代の方の感想がある。スマホが使えないと取り残されていくような社会になりつつあるので、みんなが理解できる取り組みができるといいと思う。

○E委員

私は、暮らしに役立つ実学講座（芝久保）のスタッフだったが、4回の講座でスマホを使いこなせるようになるのは難しい。講座終了後も、継続して学んでいく必要があると思う。

○F委員

今の若い方、30代、40代はスマホを使いこなしている。谷戸公民館は大学生の力を活かした事業を行っているが、30代、40代の方にボランティアとしてかかわってもらって講座を運営してみてもどうか。世代間交流という要素も入れて行き、終了後は、サークルに参加して、継続的に学んでいくようにしてはどうか。

インクルーシブな社会をめざす講座「みんなでつくるボッチャ大会」（谷戸）について、場所は公民館なのか。報告書に場所を書いた方がよいと思う。

○分館長（谷戸）

南町スポーツ・文化交流センター「きらっと」で行った。

○B委員

教養講座「脳で見る・聞く・記憶する」（柳沢）について、難しい内容の講座なのに、多数の方が参加。しかも、70代も多い。じっくり考える内容の教養講座の需要は多いと思う。

インクルーシブな社会をめざす講座（谷戸）について、参加者の感想を読んで、みんなでつくっていく実行委員会方式で実施してよかったのだと感じた。

多世代交流講座「西原自然公園をみんなで観察 雑木林の再生と五感でアート」（芝久保）について、自然環境保存と芸術をつなげていて、今後も続けていっていただきたい。

全体的にどの講座もとてもよいと感じた。

(2) 令和5年度公民館主催事業計画について（資料3）

○A委員

教養講座Ⅱ「『にんげんをかえせ』上映とトーク 草の根パワーによる非核・平和運動のヒント」（ひばりが丘）について、事業目的に非核・平和のために一步を踏み出す機会としたいとあるが、1回で終わらせるのではなく、参加者が感じ取ったこと、感想、思いを次につなげていく丁寧な講座にしていただきたい。深い問題を取り上げる講座は、1回で終わることなく、その先を見据えていただけたらと思う。

○B委員

教養講座Ⅱ（ひばりが丘）について、映画は映像的にはかなり古いので、今の感覚からすると、エンターテインメント性はない。運動として映画がつけられたことを伝えたり、アメリカでの上映運動にかかわったシンガーソングライターが歌ったり、原水爆禁止運動を研究している方が話されたりするが、映像については、問題を突きつけるという点で大丈夫だろうかと思う。

防災講座「防災に強くなる自助・共助を知る」（保谷駅前）について、他館の防災講座では

周辺の自治会等との連携が見られるが、保谷駅前公民館は難しいのか。

○分館長（保谷駅前）

今までも自治会等に声をかけてきた。今回は、北東部地域協力ネットワーク「ほくっとネット」と共催で行う。

○B委員

高齢者対象講座「在宅医療と人生ノート」（保谷駅前）について、人生会議啓発の動画上映とあるが、人生会議とは何か。高齢者支援課が行っている事業なのか。

○分館長（保谷駅前）

人生会議は、高齢者支援課の事業ではない。

○事業係長

教養講座Ⅱ（ひばりが丘）について、上映後に行うアメリカでの上映運動のお話等が事業のメイン。映画を見て感じ取ったこと等を深めていきたいと考えている。

(3) 令和6年度公民館主催事業計画について

●公民館より、令和6年度公民館主催事業計画について説明

○F委員

保谷駅前公民館で継続的に取り組んでいる不登校についての講座は、子どもと保護者対象講座が該当するのか。

今年度実施されている保谷駅前公民館の趣味講座「保谷駅前バンドをやろう」には、現役世代が多数、参加している。今まで公民館に来たことがなかった方もいる。仕事をしながら、子どもの幼稚園の送り迎えをしながらバンド練習をしている方など、現役世代の参加が多い。施設の特徴を活かした、現役世代を対象とした講座であることを強調していただきたい。

○G委員

私が所属する保谷落語愛好会は、今年度、地域連携講座「落語っておもしろい！あなたもハマる落語の世界」（保谷駅前）を保谷駅前公民館と共催で開催してきた。今まで、会が行ってきた催しは高齢者の参加が多かった。しかし、共催事業で「親子で楽しむ」という言葉を入れて広報した結果、家族での参加も多かった。公民館に初めて来た方も複数いた。

○H委員

公民館の利用が少ない現役世代の参加は、開かれた公民館という基本方針につながる。現役世代に参加してほしいのであれば、オンライン参加や適切な開催日時について検討する必要がある。事業計画作成の段階で、開催方法や開催日時等についても検討しているのか。

公民館主催事業には近隣の方が参加するのか。テーマによって、遠くても参加するのか。告知の段階で、対象やジャンルが一目瞭然でわかるようになっていっているとよいと思う。

○事業係長

継続事業を中心に、開催方法や開催日時等についても検討して事業計画を作成している。

○B委員

柳沢公民館の利用者懇談会で、視聴覚室で定期的に公民館利用団体等が活動成果を発表する、楽しい催しがあるとよいという意見があった。報告書を読むと、公民館まつり等の地域交流事業は、地域の方が楽しみにしていることがわかる。可能であれば、もう少し、例えば隔月に催しを企画できるとよいと思う。

問いかける公民館という点では、社会的に深く考える問題がもう少しあってもよいのではないかと。聞きっぱなしではなく、問題提起されたことをみんなで考える講座、講師の話聞いて、意見交換しながら、みんなで考える講座があってもよいのではないかと。

趣味の講座については、内容をもう少し詳しく書いていただいた方が意見を述べやすい。

(4) 公民館市民企画事業について

●公民館より、公民館市民企画事業について説明

(5) まちなか先生について

●公民館より、まちなか先生について説明

○I委員

私の勤務校では、今年度、まちなか先生の平和講座を実施した。子どもたちにとって戦争はテレビの中の世界。戦争のことは知識として知っている。それが、まちなか先生の平和講座を受けて、自分たちが住んでいる町にかつて爆弾が落とされ、被害を受けたということがリアルにわかった。講師が話されるだけでなく、その後、グループに分かれて話し合いもした。子どもたちの素直な声を聞くことができた。とてもよかったので、毎年、お願いしたいが、希望する学校が多いので、難しいだろう。

○H委員

来年度も、今年度と同じテーマ、内容で実施されるのか。それぞれの講座で、講師は固定で決まっているのか。その都度、選定するのか。

○公民館長

各講座の講師は年間通して同じ方に依頼している。まちなか先生の目的のひとつに学校と地域人材をつなぐことがあるので、概ね3年で講師を変更していくことを考えている。今年度で3年が終了するので、来年度は、講師を変更する予定。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

教育委員会と市議会について報告する。

教育委員会定例会が11月22日と12月26日に行われた。11月22日は公民館に関する質疑はなかった。12月26日は、みなさんにご審議いただいた令和4年度公民館事業評価の報告を行った。教育委員からは、公民館事業評価は4段階、図書館事業評価は3段階と異なっているので、統一した方がよいのではないかという意見が出された。また、公民館事業評価のA「十分達成」とB「概ね達成」の違いがわからないという意見もあった。来年度は3段階で評価してもよいかもしれない。付帯意見については「増員を求めるのは正規職員でないといけないのか」という質問があり、公民館専門員の役割の重要性について説明した。また、館長に人事権はあるのかという質問があったので、人事権はないと答えた。

12月議会の一般質問では、公民館に関して2つ質問があった。一つは社会教育施設の機能の変更の有無についてで、教育長は機能の変更は考えていないと答弁した。もう一つは公民館の子どもの利用や子ども向けの公民館主催事業についての質問で、夏休み期間中に各館で、公民館利用団体の協力も得ながら様々な子ども向けの事業を行ったこと、地域交流事業でも子ども向けの体験事業を行っていることを答弁した。

(2) 公民館だより編集室報告

- 担当委員より、11月20日、12月11日、1月15日開催の公民館だより編集企画会議について報告。2月1日号の特集記事について紹介。

(3) 西東京市文化財保存・活用計画策定懇談会報告

- 担当委員より、3回実施された懇談会について報告。

(4) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 担当委員より、1月18日に開催された委員部会運営委員会について報告。

4 事務連絡及び情報交換

(1) 令和5年度第1回利用者懇談会について

- 公民館より、利用者懇談会開催日程を紹介。

(2) 令和5年度第9回定例会の開催について

日時：令和6年2月21日(水) 午後6時30分 場所：柳沢公民館 視聴覚室